

精密小型モータの世界市場を調査

2010年予測

世界市場は72億195万個(08年比82.2%)、1兆3,892億円(08年比79.5%)

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、音響・映像機器、情報通信機器、家電・住設、自動車など幅広い用途に使用される精密小型モータの世界市場を調査した。その結果を報告書「精密小型モータ市場実態総調査 2009」にまとめた。

この報告書では、ガバナレスモータ、電子ガバナモータ、コアレスモータ、ステッピングモータ、軸流ファンモータ、ブラシレスモータ、インダクションモータ、シンクロナスモータ、ユニバーサルモータといった精密小型モータ9品目と、軸受(ベアリング)やシャフト、永久磁石などの部品や材料11品目の市場を分析している。

<調査結果の概要>

精密小型モータの世界市場

	2008年見通し	前年比	2010年予測	08年比
数量	87億6,418万個	92.9%	72億195万個	82.2%
金額	1兆7,481億円	92.7%	1兆3,892億円	79.5%

2008年の小型モータの世界市場は、景気悪化の影響を受け、数量ベースで前年比7.1%減の87億6,418万個、金額ベースで前年比7.3%減の1兆7,481億円になったと見られる。景気悪化の影響による小型モータ需要の減少は、局地的なものではなく日本、アジア、欧州、北米の四局全ての地域で見られる。従来ならば、局地的なマイナスをアジアなどの地域によってカバーしてきた構図は現状全く当てはまらない状況であり、2009年は更なるマイナスが見込まれる。

しかしこのマイナスは、品目別に見るとかなりの格差がある。特に音響・映像関連機器や情報通信関連機器を主用途とするガバナレスモータやステッピングモータ、コアレスモータのマイナスが顕著である。ガバナレスモータやステッピングモータの場合は、先ずDVDプレーヤやラジカセなどの音響関連機器での需要一巡による停滞が影響している。今までは、これらのマイナスをデジタルカメラやカムコーダなどの花形製品によって補ってきたが、これらの用途でもセットメーカーが生産調整に入り、マイナス傾向が強くなっている。更にはDVD-ROM/RAM関連需要も、PC関連需要の減速と相俟ってマイナスとなっている。また、コアレスモータについても需要の大部分を占める携帯電話機向けの低迷によりマイナスとなっている。

一方、家電・住設分野を主体とするモータにおいては、音響・映像機器や情報通信機器を主体とするモータに比べ落ち込みは軽微にとどまっている。インダクションモータやシンクロナスモータ(AC系)を始め、エアコンなどを主用途とするパワー系のブラシレスモータなどもマイナス幅は小さく、微減となった。

日系メーカーによる精密小型モータの市場

	2008年見通し	前年比	2010年予測	08年比
数量	50億5,159万個	91.1%	40億5,895万個	80.3%
金額	1兆743億円	90.9%	8,443億円	78.6%

2008年の日系メーカーによる精密小型モータの市場は数量ベースで前年比8.9%減の50億5,159万个、金額ベースで同9.1%減の1兆743億円になったと見られる。世界市場全体に占める割合は数量ベースが58%、金額ベースが61%である。日系メーカーは様々な国に供給しており、世界市場における位置付けは高い。ステッピングモータやブラシレスモータなどの制御系のモータに強く、HB(Hybrid)型のステッピングモータは100%に近い実績である。

反対にコスト競争力が問われるモータにおいては、アジアメーカーに対して劣勢であり、軸流ファンモータなどでは台湾企業がイニシアチブを握っている。これには日系メーカーが従来のような量的拡大を目的とした事業から、収益確保を前提とした事業へと変化しつつあることが背景にある。採算性の著しく低い領域においては、敢えて受注しないような取り組みも見られ、需要の選択と集中を強化する方向にある。また、数量的な面では減少ながら付加価値の高い、若しくは付加価値化を図りやすい分野へ特化していくと予測される。

<主なモータの動向>

1. ガバナレスモータ

	2008年見通し	前年比	2010年予測	08年比
数量	53億 287万个	92.7%	43億4,000万个	81.8%
金額	8,700億円	91.2%	6,990億円	80.3%

ガバナレスモータは、最も汎用性が高く、音響・映像機器、情報通信機器、家電・住設機器、自動車、業務・産業機器など多様なアプリケーションに採用されている。

2006年、2007年と市場は順調に拡大してきた。しかし、2008年は秋口から近年の伸びを支えてきたパソコンやデジタルカメラ、携帯電話向けなどの需要が縮小し、市場は数量ベースで前年比7.3%減の53億287万个、金額ベースで同8.8%減の8,700億円になったと見られる。数量ベースの市場の56%が日系メーカーによる実績であるが、日系メーカーでは採算性の悪化したアプリケーションから撤退し、事業の再編で実績を落としたところもあるため、日系メーカーによる実績の落込みは大きい。2009年は更に厳しい状況が予測されるが、2010年はその反動から回復し始めると見られる。

日系メーカーではマブチモーターの実績が最も大きい。ワールドワイドで見てもトップシェアはマブチモーターであるが、香港メーカーの勢力も強く、Johnson Electric、Standard Motor、SUN MOTOR TECHNOLOGY GROUP など多数が上位にランクインしている。

2. ブラシレスモータ(情報系/パワー系)

	2008年見通し	前年比	2010年予測	08年比
数量	9億1,251万个	93.8%	7億2,200万个	79.1%
金額	2,970億円	92.2%	2,275億円	76.6%

ブラシレスモータは、各種情報機器や音響・映像機器、車載電装機器に採用されている情報系と、給湯器やエアコンなどの家電・住設製品や自動車のパワーステアリングなどに採用されているパワー系に大別される。メインは情報系で、近年特にHDD向けが急速に増加してきた。一時はSSDとの競合から将来性が危惧されたが、現状では棲み分けされ、2008年はマイナスとなるが景気が回復すれば安定した市場成長が予想される。また、車のエンジン周りの電装用途についても景気回復による需要拡大が期待される。一方、パワー系は情報系に比べ落ち込みは軽微であるが、景気の低迷が長引けばその影響も大きくなると考えられる。

2008年の市場は数量ベースで前年比6.2%減の9億1,251万个、金額ベースで7.8%減の2,970億円になったと見られる。2008年は第3四半期までは好調でプラス成長を遂げたメーカーもあるが、2009年は各メーカー共にマイナスを避けることが出来ないと見られ、市場は数量ベースで前年比25%減が見込まれる。2010年には上向くが、2007年の市場規模までの回復には至らない。

2008年の数量ベースでの市場の79%が日系メーカーによる実績である。HDD向けの実績を持つメーカーの位置付けが特に高く、日本電産を筆頭に、パナソニック、ミネベア、アルファナテクノロジーが上位を占めている。ワールドワイドで見てもこの日系4社に韓国系の企業が競合するかたちとなっている。その中でも日本電産が

突出しており、今後も市場を牽引していくと見られる。

3. ステッピングモータ (PM、LS、HB)

	2008年見通し	前年比	2010年予測	08年比
数量	10億4,172万個	90.9%	8億4,540万個	81.2%
金額	1,465億円	91.9%	1,182億円	80.7%

ステッピングモータは大きくPM (Permanent Magnet) 型とHB型に区分され、PM型は更にLS (Lead Screw) 付きがある。2007年の市場構成比は数量ベースでPMが40%、LS付きPM型が56%、HB型が5%である。

近年はDVD-ROM/RAMをはじめとするディスクドライブ関連やデジタルカメラ向けの需要によって市場拡大を続けてきた。しかし、2008年は下期からその需要に陰りが見え始め、市場が数量ベースで前年比9.1%減の10億4,172万個、金額ベースで同8.1%減の1,465億円になったと見られる。需要減少の影響を特に受けたのがLS付きPM型で、2008年の実績は数量ベースで前年比13%減になったと見られる。PM型とHB型においても市場を拡大させる要因は見当たらない。2009年の市場も数量ベースで前年比19%減になると見込まれる。2010年には回復するとの見方もあるが、需要面での見通しは立っていないため僅かに前年を上回る程度にとどまると予測される。

2008年の数量ベースの市場の68%が日系メーカーによる実績である。日系メーカートップシェアの日本電産サンキョーはLS付きPM型で圧倒的な実績を持つ。また、PM型、HB型ではミネベアモータが高い実績を持っている。ワールドワイドでもトップシェアは日本電産サンキョーであり、以下も日系メーカーが上位を占めている。日系メーカー以外では韓国のMOATECHが日本電産サンキョーに次ぐ実績で健闘している。

以上

<調査対象>

小型モータ市場編	ガバナレスモータ、電子ガバナモータ、コアレスモータ、ステッピングモータ (PM・LS・HB)、軸流ファンモータ (DC・AC・プロワ)、ブラシレスモータ (情報系・パワー系)、インダクションモータ、シンクロナスモータ、ユニバーサルモータ
モータ部品・材料	軸受 (ボールベアリング、メタルベアリング、動圧ベアリング)、シャフト (軸)、永久磁石 (希土類焼結磁石・焼結以外 (ボンド含む)、フェライト磁石)、エンジニアリングプラスチック (ポリブチレンテレフタレート、ポリアミド46、液晶ポリマー)、無方向性電磁鋼板、マグネットワイヤ、ギャヘッド、ブラシ (カーボン・金属)、整流子 (コミュテータ)、ブラシレスモータ用ドライバIC/LSI、プリントコイル

<調査方法>

富士経済専門調査員による参入メーカー及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献、社内データベースを併用

<調査期間>

2008年11月～2009年3月

資料タイトル: 「精密小型モータ市場実態総調査 2009」

体 裁 : A4判 278頁

価 格 : 97,000円 (税込み101,850円)

調査・編集 : 富士経済 大阪マーケティング本部 第二事業部

TEL:06-6228-2020 FAX:06-6228-2030

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail: info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>